

	重点目標	評価指標		
	評価項目	具体的な取組と目標達成状況	学校関係者評価	次年度に向けた改善方策
1	「ゆたかな心」と「たしかな力」を育てるための基盤づくり	①支持的風土づくりに努める 生徒がお互いを認め合う活動やお互いにアドバイスする活動を通して支持的風土づくりに努めた。大部分の教職員も意識して取り組むことができた。	自己評価については妥当であり、内容もよくかけている。 しかし、「安心」という言葉がいろいろなところにあるが、「安心」というのは概念的なものであり、主観的なとらえとなりがちである。 「安心」という状況を作り出すための、具体的なしくみやルール作りが必要である。 また、生徒にもどのようにすれば達成できるのかという具体的な目標の形で示す必要がある。 「安心」は目標ではなく、目標が達成された上で実現する状況ではないか。	生徒が安心して生活するための精神的な環境づくりは今後も大切にすべき課題である。個別に取り組むのではなく学校全体として実践するための目標を設定していきたい。
		②ユニバーサルデザインを意識した学年・学級・授業づくりを行う 様々な特性を持つ生徒が安心して生活できる環境づくりを意識して行うことができた。生徒アンケートや保護者アンケートの結果からも環境が改善された傾向が表れた。		生徒が安心して生活するための物理的な環境づくりは今後も大切にすべき課題である。個別に取り組むのではなく学校全体として実践するための目標を設定していきたい。
	③安心して生活・学習するために教員と生徒、生徒同士が丁寧で適切な言葉を使う 教職員が意識して取り組んではいるが、未だに「教員の言葉づかいが悪い」という意見をいただいている。信頼関係の基礎となり、安心して生活するための基盤となる言葉遣いは日々気にかけて教育活動をする必要がある。	重点として取り組むか否かの課題ではなく、教育活動における言葉遣いは基本となるものである。丁寧で適切な言葉遣いがよりよい人間関係を育むことを全教職員・全生徒に機会あるごとに確認していく。		
	教育環境整備			

	重点目標	評価指標	学校関係者評価	次年度に向けた改善方策
	評価項目	具体的な取組と目標達成状況		
2	「ゆたかな心」を育てる活動・体験	①生徒の思いを取り入れる 行事を含む特別活動を中心に、生徒の思いを取り入れた企画をするために十分に話し合いを持ってきた。教職員の意識は基本的な高まっている。	自己評価は妥当ではあるが、次のようなことに留意する必要がある。 生徒同士の活動を取り入れるということは重要な視点である。 その中で今の子どもたちには自信をつけさせるための教育というものがもっと必要ではないか。生徒の居場所づくりを今後も進める必要がある。 また、ゆたかな心を育てるためには教職員の人間力がかぎとなる。組織として生徒を育てるためには、教職員同士の情報交換も大切にすべきである。	よりよいものを作るために時間をかける必要がある。しかし、教職員の時間と労力は有限である。その中で成果を最大限に出すためには、生徒の実態を的確につかみ、目標を厳選して活動を設定する必要がある。 教職員が発達段階を意識するだけでなく、異学年活動の場を増やすことで生徒にも3年間を見通した活動の質的な目安を持たせることも必要である。 教職員がしっかりとしたフレームをつくった上で、生徒のことは生徒にまかせる場面をつくることで、生徒同士の関係性を高めるとともに、主体性や自主性を育てていく。 創立30周年記念としての学校行事を十分に活用したい。
		②フィードバックによってスパイラルに心を育てる 振り返りの活動を大切に行ってきたが、3年間のスパンで段階に応じて目標・活動を適切に設定することが今後の課題である。		
	教育課程・特別活動 創造的な生徒指導	③生徒同士の関係性を重視する 授業を含めて様々な場面で生徒同士の活動を取り入れてきた。生徒アンケートの結果から「みんなで協力する喜び」を感じている生徒が特に3年生に多いことがわかる。3年生のリーダー性を生かした行事や3年間の積み重ねが結果に表れたと考える。		
3	授業での規律づくり、生徒の主体的な活動、魅力ある教材・教具を意識して授業を展開する。	①「教えて考えさせる授業」を実践する。	自己評価は妥当ではあるが、次のようなことに留意する必要がある。 授業の目標については設定のレベルや生徒にわかる表現で行うことが課題である。 研究発表会は教員・生徒にとって励みとなるだろう。	できるだけ教員の言葉を削り生徒の活動を充実させる必要がある。そのための個々の教員の工夫や実践を校内において共有することで、生徒に「わかる授業」や「主体的に取り組むことができる授業」を実感させたい。 創立30周年記念研究発表会の実施を活用して、実践を深めたい。
	教育課程・学習指導	生徒アンケート・保護者アンケートの結果から依然として「授業がわかりやすい」と感じている割合は約50%である。今後も「教えて考えさせる授業」の実践に取り組む必要がある。特に「教師の説明の精選」「理解確認や理解深化の工夫」「自己評価の活用」は継続して重点的に取り組むべき課題である。		